

保健師助産師看護師国家試験出題基準

平成30年版

厚生労働省医政局看護課

目 次

医道審議会保健師助産師看護師分科会保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会 委員名簿
保健師助産師看護師国家試験出題基準とは
保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用方法

【保健師国家試験出題基準】

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学概論	保－1
公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループへの支援）	保－4
公衆衛生看護方法論Ⅱ（地域組織・地域への支援、事業化と施設化）	保－7
対象別公衆衛生看護活動論	保－10
学校保健・産業保健	保－14
健康危機管理	保－17
公衆衛生看護管理論	保－19
疫学	保－20
保健統計	保－22
保健医療福祉行政論	保－24

【助産師国家試験出題基準】

基礎助産学

基礎助産学Ⅰ	助－1
基礎助産学Ⅱ	助－5

助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	助－8
助産診断・技術学Ⅱ	助－10

地域母子保健 助－26

助産管理 助－28

【看護師国家試験出題基準】

必修問題	看－1
人体の構造と機能	看－9
疾病の成り立ちと回復の促進	看－14
健康支援と社会保障制度	看－19
基礎看護学	看－25
成人看護学	看－29
老年看護学	看－39
小児看護学	看－44
母性看護学	看－49
精神看護学	看－55
在宅看護論	看－60
看護の統合と実践	看－64

【参考】保健師助産師看護師国家試験制度改善検討部会報告書（平成28年2月22日）

医道審議会保健師助産師看護師分科会
保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会委員名簿

	氏名	所属
部会長	◎ 中山 洋子	高知県立大学大学院看護学研究科
保健師	○ 佐伯 和子	北海道大学大学院保健科学研究所
	荒木田 美香子	国際医療福祉大学小田原保健医療学部
	安藤 智子	千葉科学大学看護学部
	上原 里程	宇都宮市保健福祉部
	岸 恵美子	東邦大学看護学部
	佐藤 由美	群馬大学大学院保健学研究科
	塚田 ゆみ子	長野県健康福祉部保健・疾病対策課
	前田 秀雄	渋谷区健康推進部兼渋谷区保健所
	山野井 尚美	岡山県保健福祉部健康推進課
	助産師	○ 高田 昌代
岡垣 竜吾		埼玉医科大学産婦人科
片桐 麻州美		帝京大学助産学専攻科
倉本 孝子		社会医療法人愛仁会本部看護部
土田 晋也		東京大学大学院医学系研究科小児科
林 啓子		杏林大学医学部附属病院
廣瀬 孝子		日本赤十字社医療センター
山崎 圭子		東邦大学看護学部
米山 万里枝		東京医療保健大学大学院医療保健学研究科
看護師 必修問題		○ 佐伯 由香
	遠藤 由美子	つくば国際大学医療保健学部看護学科
	佐々木 幾美	日本赤十字看護大学看護学部看護学科
人体の構造と機能	○ 深井 喜代子	岡山大学大学院保健学研究科
	習田 明裕	首都大学東京健康福祉学部看護学科
	福島 統	東京慈恵会医科大学教育センター
疾病の成り立ちと回復の促進	○ 縄 秀志	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科
	川井 真	東京慈恵会医科大学循環器内科
	長堀 隆一	国立研究開発法人日本医療研究開発機構戦略推進部再生医療研究課
健康支援と社会保障制度	○ 朝倉 京子	東北大学大学院医学系研究科
	大橋 俊子	栃木県南健康福祉センター
基礎看護学	○ 香春 知永	武蔵野大学看護学部看護学科
	宮本 千津子	東京医療保健大学医療保健学部看護学科
	渡辺 美保子	ポラリス保健看護学院
成人看護学	○ 宇都宮 明美	聖路加国際大学大学院看護学研究科
	清水 安子	大阪大学大学院医学系研究科
	外崎 明子	国立看護大学校
	葉梨 智子	東海大学医学部附属東京病院
	山勢 博彰	山口大学大学院医学系研究科保健学専攻臨床看護学講座
老年看護学	○ 牛田 貴子	湘南医療大学保健医療学部看護学科
	時本 圭子	倉敷中央看護専門学校
	百瀬 由美子	愛知県立大学看護学部・大学院看護学研究科
小児看護学	○ 西村 真実子	石川県立看護大学
	中村 伸枝	千葉大学大学院看護学研究科
	横山 由美	自治医科大学看護学部
母性看護学	○ 片岡 弥恵子	聖路加国際大学大学院看護学研究科
	中込 さと子	山梨大学大学院総合研究部
	中村 幸代	横浜市立大学医学部看護学科
精神看護学	○ 萱間 真美	聖路加国際大学大学院看護学研究科
	江波戸 和子	杏林大学保健学部看護学科
	森 真喜子	国立看護大学校
在宅看護論	○ 福井 小紀子	日本赤十字看護大学
	棚橋 さつき	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科
	結城 美智子	北海道大学大学院保健科学研究所
看護の統合と実践	○ 宮本 千津子	東京医療保健大学医療保健学部看護学科
	勝山 貴美子	横浜市立大学医学部看護学科
	縄 秀志	高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科
	渡辺 美保子	ポラリス保健看護学院

(◎：部会長、○幹事委員)

(敬称略)

保健師助産師看護師国家試験出題基準とは

保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験（以下「保健師助産師看護師国家試験」という。）は、保健師助産師看護師法第 17 条に基づき、それぞれ保健師、助産師又は看護師として必要な知識及び技能を評価するものである。

保健師助産師看護師国家試験の内容は、保健師、助産師及び看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能であり、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、これらを具体的な項目によって示したものである。保健師助産師看護師試験委員（以下「試験委員」という。）は、保健師助産師看護師国家試験の妥当な内容や範囲及び適切な水準を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、保健師、助産師及び看護師学校養成所の教育で扱われる全ての内容を網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものでもない。

保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用法

利用者は以下の各項に留意し、利用すること。なお、各項目は、保健師助産師看護師国家試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、必ずしも学問的な分類体系と一致しない点があるほか、各科目や項目間で内容が重複することがある。

1. 目標

目標は、保健師助産師看護師国家試験における出題のねらいを示している。この出題のねらいを踏まえ、大・中項目の記載内容によって、保健師、助産師及び看護師として少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能について出題する範囲が示されるものである。

2. 大・中・小項目の位置付け

1) 大項目

中項目を束ねる見出しである。なお、中項目の記載と併せて「出題の範囲」を示すことがある。

2) 中項目

保健師助産師看護師国家試験の「出題の範囲」となる事項である。

3) 小項目

中項目に関する内容を分かりやすくするために示したキーワードである。よって、小項目の表現や記載の有無に限らず、中項目で記載された内容が「出題の範囲」となることに留意する。

従って、「出題の範囲」は記載された事項に限定されず、標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容を含むものとする。

3. その他

1) 括弧書き

提示する同一事象に対し、異なる表現がある場合には、括弧書きで提示している。試験委員の判断により、括弧内・外の語を単独又は併記して使用できる。

なお、括弧は以下の規定により用いている。

< > : 直前の語の言い換え

①正式名称と比しても略語の周知度や重要度が高い場合

②和名と英名等によって同義語を記載する場合

③人名を冠した用語において原語を併記する場合

例 ; 世界保健機関<WHO> 権利擁護<アドボカシー>
Apgar<アプガー>スコア など

() : 直前の語のさらに下位項目

①直前の語の具体的な例示が必要な場合

②特に重要な事項を示す場合

例 ; 情報管理 (個人情報保護) 肺循環障害 (肺高血圧、肺塞栓症)
など

2) 読点「、」及び中点「・」

関連する語を列記する際に、読点「、」及び中点「・」を以下の規定により用いている。ただし、検索の利便性を確保する観点から、索引には中点を使用せずに掲載している場合がある。

読点「、」 : 単純に列記する場合

例 ; 肺癌、胃癌 粘膜、皮膚 アスベスト、放射性物質 など

中点「・」 : 前後の語での重複を排して列記する場合、英熟語を使用する場合

例 ; 転倒・転落の防止 羊水の量・性状 インフォームド・コンセント など